ハ直チニ人工齒ト思ハレルノテ此ノ小白齒ヲ大キクスベキチアルト云フ事ハ永ラク知ラレテ居タノデアアルガ未ダニ解決サレナカツタ。而シ此ノ有溝「ヂアトリックス」(Furchenzahn-Diastorics) 陶齒ニ於テ自然ノ大イサノ小白齒ト普通ノ大イサノ大白齒トノ結合組合セガ出來タノテ初メテ吾人等ノ義齒問題ノ正シキ解決法ガ發見セラレタ譯デアアル。

ロ)。新シイ犬齒ノ齒頸部ノ型ガ良好ニ出來テ居ル點デアアル。例ヘバ非常ニ平面的ナ顎ノ場合デモ困難ナク使用スル事が出來ル様ニ永イ齒牙デハ強度ノ弓型前齒部ヘノ良好ナル移行及ビ審美的美サ等ガ與ヘラレテキルト云フ具合デアアル。

ハ)。無咬頭ノ爲ニ不美デアルト云フ異論ニ對シテ著者ハ無咬頭デモ有咬頭陶齒ト認メル事が出來ル様ナ解剖學的型態ガ選擇サレテキルト強調シテ居ル。「チューブ」陶齒ガ $R_2R_3R_4$ ト云フ表示デ容易ニ分類スル事が出來ルト同様ニ有溝「ヂアトリックス」モ又頭文字ノ F. D. ヲ以テ各々ノ齒牙ノ大イサヲ容易ニ分類スル事が出來ル。即チ F. D. 1 ト 2 ハ齒槽堤ノ普通ノ幅ニ考慮ガ拂ハレタ大イサノ物デアアル。F. D. 3, 4 ハ種々様々ナル小白齒ノミヲ含ム。(平野俊夫)

矯 正 科

矯正施術ノ 2, 3 ノ問題

Some Problems of treatment. By N. J. Ainsworth. D. R. 1934, No. 4. p. 169.

著者ハ矯正施術ヲ行フ際ニ下顎前齒ヲ拔去セル數例ニ於テ施術直後ノ狀態竝ビニ數年後ニ於ケル齒列ノ變化ニ就テ詳細ナル臨牀報告ヲナシ之ニ關シテ 2, 3 ノ注意ス可キ點ヲ舉ゲテアル。通常下顎前齒拔去ノ適應症トシテ舉ゲラレタルノハ(1)下顎前齒竝ビニ犬齒部位ノ叢生デアツテアンクル氏分類ノ一級乃至ハ輕度ノ二級ニ屬スルモノ。(2)上顎前齒ガ缺損セル場合デアツテ下顎齒穹ノ大サヲ減ジ上顎齒穹トノ間隙ヲ少クシテ上下前齒ヲ相接觸セシムルコトが可能ナル場合。

然シナガラ第一ニ屬スル場合ハ施術直後ニ於テハ極メテ良好ナル結果ヲ現ハスガ時期ノ經過ニツレテ齒穹前方ノ縮小ヲ來シ通常兩犬齒間ノ距離ハ著シク狭クナルノデアアル。著者ノ經驗セル數例中興味アル 1 例ハ最初上顎前齒ガ破壊セラレシタメニ拔去シタノデアアルガ下顎前齒モ亦上下前齒ノ咬合關係ヲ整ヘルタメニ拔去セラレタノデアアル。所ガ上顎前齒ノ拔去セラレタ間隙ガ約 3 耗ニナツタ時ニ下顎前齒ガ著シク叢生ノ狀態トナツタノテ止ムヲ得ズ下顎側切齒ヲ拔去シタ。而シテ 8 ヶ月テ全ク此ノ間隙ハ消失シテ極メテ良好ナル結果ヲ得、其ノ後再び下前齒ノ叢生ノ狀態ハ認メラレナカツタ。

他ノ數例ト同様此ノ症例ニ於テモ犬齒間距離ノ著シク狭小トナツタノハ明デアアル。從ツテ此ノ分類ニ屬スル限リ下前齒ノ拔去ニ依リテ下顎ノ前方殊ニ犬齒部ニ於テ齒穹ノ縮小ヲ來スコトガ何等障礙ヲ與ヘズ且ツ其ノ結果上顎前齒部ノ狭小ヲ招來スルコトガ矯正施術上ノ利益ヲ來サナイ場合ノミ此ノ施術方法ガ適當且ツ最良ノモノデアアルコトハ明デアアル。

次ニ抜去問題トシテアンゲル氏分類第二級、一類ニ屬スル不正咬合ノ施術ニ際シ上顎兩側第一小臼齒ヲ拔去シ上顎前齒ヲ舌側ニ移動セシムル方法ヲ述ベ之ニ關シテ著者ノ臨牀經驗ヨリ2, 3ノ注意ス可キ事項ニ就テ論述シテラル。即チ小臼齒ノ拔去ニ依リテ得ラレタル間隙ハ屢々上顎前齒ノ舌側移動ノミナラズ後方臼齒ノ近心移動ニ依リテ消失スルコトガアルコトヲ經驗シタト報告シテラル。

猶ホ著者ハ齒穹擴大法ニ依リテ施術セル例ヲ報告シ6年後ニ於テ其ノ不正狀態ハ全ク施術前ト同様ナル狀態ニ復歸セルコトヲ認メタ、斯ノ如キコトハ日常決シテ稀ニ見ル所デハナイノデアツテ著者自身モ相當ノ症例ヲ有シテラルト述ベテラル。然シナガラアル症例ニ於テハ齒穹擴大法ニ依リテ充分ナル效果ヲ擧ゲ且ツ其ノ結果モ永久性デアルコトモ亦屢々經驗スル所デアル。

最後ニ著者ハ拔去ヲ行ハズシテ施術ヲ行ヘル數例ヲ擧ゲ何レモ極メテ良好ナル結果ヲ得タト報告シテラル。殊ニ興味アル1例ハアンゲル氏分類第二級ノ症例デ上下前齒ハ著シキ過著狀態デアツタ。最初シバラク擴大牀ヲ用ヒタガ間モナク中止シ其ノ儘放置シタ所ガ擴大ハ全部復歸シタ。其ノ後前齒ノ發生狀態ハ漸次改善セラレタガ1925年ニハ第二級、第二類ノ狀態トナリ、其ノ後前齒ノ舌側傾斜ハ自然ニ改善セラレタガ、ヤハリ二級ノ狀態デアルコトニハ變ハリハナカツタ。所ガ其ノ後患者ヲ診療シタ時ハ明ニ一級ノ狀態殆ド正常ナル咬合狀態トナツタノヲ認メタノデアル。即チ本例ニ於テハ1928年カラ1932年ノ4年間ニ何等施術ヲ施サザルニ二級ヨリ一級即チ正常ナル咬合狀態ニ變化シタノデアル。以上多數ノ臨牀的實驗ヨリ著者ハ次ノ如キ言ヲ以テ此ノ論文ヲ結ンデラル。

如何ニ早期ニ矯正施術ヲ開始シテモ骨ノ發育ノ起ル可キモノハ成功シ何等カノ理由ニ依リテ骨發育ノ行ハレザルモノハ結局不成功ニ終ルモノデアル。

最後ニ著者自身ハ矯正家が自信アリゲニ發スル所ノ『矯正器ノ挿入ニ依リテ骨ノ發育ヲ促ス』ト人フ言ニハ聞キ倦キタト云フコトヲ認メナケレバナラナイト述ベテラル。(高橋新次郎)